



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月31日

上場会社名 株式会社一蔵 上場取引所 東  
 コード番号 6186 URL <https://www.ichikura.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河端 義彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務経理本部長 (氏名) 数見 康浩 (TEL) 03-5288-7111 (代表)  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	13,052	30.2	79	—	171	—	130	—
2021年3月期第3四半期	10,027	△27.7	△1,585	—	△1,284	—	△2,098	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 162百万円( —%) 2021年3月期第3四半期 △2,098百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	23.72	—
2021年3月期第3四半期	△381.68	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	18,218	2,911	16.0	528.04
2021年3月期	17,849	3,422	19.2	620.75

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 2,911百万円 2021年3月期 3,422百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,940	26.8	407	—	400	—	307	—	55.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	5,516,335株	2021年3月期	5,516,335株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	2,647株	2021年3月期	2,647株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	5,513,688株	2021年3月期3Q	5,498,385株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

2022年2月10日(木)に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年12月31日まで)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、一部の地域において、度重なる緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用を受け、飲食店や大規模商業施設などの営業が制限されるなど、経済活動の抑制により国内の経済環境は厳しい状況で推移いたしました。9月末の緊急事態宣言解除により、やや落ち着きが見られる状況となりましたが、その後、新型コロナウイルスの新たな変異株が確認されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

## (和装事業)

和装事業におきましては、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しての店舗運営や教室運営により、コロナ禍でのお客様獲得に努めてまいりました。前年同四半期に比べ新型コロナウイルスによる影響が緩和、積極的な催事開催、プライベートブランド商品の堅調な受注等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,918,041千円(前年同四半期比17.6%増)となりました。セグメント利益は499,263千円となり、前年同四半期比で486,374千円改善いたしました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の受注残高は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)等の適用もあり、5,235,445千円(前年同四半期末比55.7%増)となっております。

## (ウエディング事業)

ウエディング事業におきましては、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しての式場運営、新郎新婦様、ゲストの皆様にご安心いただけるよう、結婚式に携わる従業員全員に月2回の抗原検査を開始するなど、安心・安全な結婚式の提供に努めてまいりました。度重なる緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用により、受注や施行に影響を受けたものの、前年同四半期に比べ新型コロナウイルスによる影響は緩和し、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,134,196千円(前年同四半期比96.4%増)となりました。セグメント利益は95,750千円となり、前年同四半期比で1,107,319千円改善いたしました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の受注残組数は、1,240組(前年同四半期末比9.6%減)となっております。

## (全社)

上記の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高13,052,237千円(前年同四半期比30.2%増)、営業利益79,693千円、経常利益171,741千円、親会社株主に帰属する四半期純利益130,796千円となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は18,218,836千円(前連結会計年度比2.1%増)となりました。

流動資産の残高は10,155,307千円(前連結会計年度比5.4%増)となりました。これは主に現金及び預金が276,324千円、仕掛品が338,561千円増加したことによります。

固定資産の残高は8,063,528千円(前連結会計年度比1.9%減)となりました。

負債につきましては15,307,381千円(前連結会計年度比6.1%増)となりました。

流動負債の残高は13,123,528千円(前連結会計年度比8.6%増)となりました。これは主に未払金が123,930千円、前受金が1,583,665千円増加した一方で、短期借入金が810,000千円減少したことによります。

固定負債の残高は2,183,852千円(前連結会計年度比6.6%減)となりました。これは主に長期借入金が156,734千円減少したことによります。

純資産につきましては2,911,455千円(前連結会計年度比14.9%減)となりました。これは主に「収益認識に関する会計基準」等の適用に伴い第1四半期連結会計期間期首で利益剰余金が634,640千円減少したこと、配当金38,595千円を支払ったこと、親会社株主に帰属する四半期純利益130,796千円を計上したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月14日の「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました、2022年3月期の通期連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,369,143	4,645,467
売掛金	932,497	648,943
有価証券	202,052	200,260
商品	1,957,716	2,030,035
レンタル商品	1,230,034	1,284,512
仕掛品	402,368	740,929
原材料及び貯蔵品	109,419	162,547
その他	427,535	442,611
流動資産合計	9,630,766	10,155,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,915,141	4,734,189
土地	1,336,979	1,336,979
建設仮勘定	241,538	291,205
その他(純額)	292,400	235,657
有形固定資産合計	6,786,060	6,598,031
無形固定資産		
ソフトウェア	59,934	42,785
のれん	6,194	—
その他	77,002	90,278
無形固定資産合計	143,131	133,064
投資その他の資産		
投資有価証券	59,728	55,972
出資金	10	10
敷金及び保証金	1,204,802	1,248,300
その他	24,955	28,149
投資その他の資産合計	1,289,496	1,332,431
固定資産合計	8,218,688	8,063,528
資産合計	17,849,455	18,218,836

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	775,968	775,794
短期借入金	5,200,000	4,390,000
1年内返済予定の長期借入金	430,092	471,764
未払金	375,992	499,922
未払費用	311,182	314,426
未払法人税等	26,284	30,985
前受金	4,828,288	6,411,953
預り金	34,741	36,471
賞与引当金	2,040	—
ポイント引当金	30,617	—
その他	73,473	192,210
流動負債合計	12,088,681	13,123,528
固定負債		
長期借入金	1,059,585	902,851
資産除去債務	329,558	327,267
繰延税金負債	53,109	16,756
退職給付に係る負債	548,490	578,710
役員退職慰労引当金	14,740	15,391
その他	332,681	342,875
固定負債合計	2,338,165	2,183,852
負債合計	14,426,847	15,307,381
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,019,617	50,000
資本剰余金	1,008,916	1,978,533
利益剰余金	1,426,693	884,254
株主資本合計	3,455,226	2,912,787
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36,095	31,082
為替換算調整勘定	△68,713	△32,415
その他の包括利益累計額合計	△32,618	△1,332
純資産合計	3,422,608	2,911,455
負債純資産合計	17,849,455	18,218,836

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	10,027,289	13,052,237
売上原価	4,151,075	4,946,051
売上総利益	5,876,214	8,106,185
販売費及び一般管理費	7,461,243	8,026,492
営業利益又は営業損失(△)	△1,585,029	79,693
営業外収益		
受取利息及び配当金	6,883	9,480
受取手数料	5,700	3,976
助成金収入	274,855	50,204
為替差益	16,456	36,254
その他	16,347	10,906
営業外収益合計	320,243	110,823
営業外費用		
支払利息	17,447	15,747
その他	2,031	3,028
営業外費用合計	19,479	18,775
経常利益又は経常損失(△)	△1,284,265	171,741
特別損失		
固定資産除却損	4,682	2,718
債務保証損失	8,048	—
減損損失	352,738	42,970
特別損失合計	365,469	45,689
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,649,734	126,051
法人税、住民税及び事業税	31,320	31,071
法人税等調整額	417,560	△35,816
法人税等合計	448,880	△4,745
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,098,615	130,796
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,098,615	130,796



## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,098,615	130,796
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,854	△5,012
為替換算調整勘定	△24,158	36,298
その他の包括利益合計	△304	31,286
四半期包括利益	△2,098,919	162,083
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,098,919	162,083
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、和装事業の加工販売、和装事業及びウェディング事業の写真販売について、従来は、成果の確実性が認められる場合には、販売基準によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した原価が、予想される原価の合計に占める割合に基づいて行っております。また、和装事業のポイント制度について、従来は、将来にポイントとの交換に要すると見込まれる費用を引当金として計上する方法によっておりましたが、当該ポイントが重要な権利を顧客に提供する場合、履行義務として識別し、収益の計上を繰り延べる方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は199,004千円、売上原価は17,817千円、販売費及び一般管理費は10,711千円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ170,475千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は634,640千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」は、第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる影響はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	和装事業	ウエディング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,431,685	1,595,604	10,027,289	—	10,027,289
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,431,685	1,595,604	10,027,289	—	10,027,289
セグメント利益又は損失(△)	12,889	△1,011,569	△998,679	△586,350	△1,585,029

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△586,350千円は本社管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整しております。

## 2. 報告セグメントごとの減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ウエディング事業」セグメントにおいて、店舗については、売却を決定したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額した減少額7,822千円を、式場については、収益性の低下が認められるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額した減少額344,915千円を減損損失として特別損失に計上しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	和装事業	ウエディング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,918,041	3,134,196	13,052,237	—	13,052,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,918,041	3,134,196	13,052,237	—	13,052,237
セグメント利益	499,263	95,750	595,013	△515,320	79,693

(注) 1. セグメント利益の調整額△515,320千円は本社管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

報告セグメントに配分されていない全社資産のうち、東京本社移転の意思決定に伴い、東京本社事務所資産について減損損失を認識しております。当該減損損失の金額は当第3四半期連結累計期間において42,970千円であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「和装事業」の売上高は156,161千円減少、セグメント利益は126,872千円減少し、「ウエディング事業」の売上高は42,843千円減少、セグメント利益は43,603千円減少しております。